**現代の国語　単元指導計画**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 科目名 | 現代の国語 | 単元名 | 考えを発信する『主体的に読む』 |
| 使用教材 | 『作業ロボットの悲劇』  『結論を出すために話し合う』 | 使用教科書 | 大修館書店　現代の国語 |
| 教材観 | 『作業ロボットの悲劇』では、AIの知的活動について「フレーム問題」を例示しながら述べている。一方で、人間は有限な情報処理能力しかないが、疑似的に解決しているのだとロボットと人間を対比しながら述べてもいる。AIのように全部を計算しないで、適度なところで、結論を出してしまうのが人間であるなら、「時と場合に応じた結論をその都度導き出す資質・能力」こそが人間らしいものであると生徒に気づかせるのに最適な教材と考え、設定した。 | | |
| 生徒観 | 明朗な生徒が多く、日頃の授業からペア活動やグループ活動にも積極的に取り組むことができる。「文章を読み、要旨・要点を把握すること」や「自分の考えや意見を論述すること」に重点的に取り組んでいる。一方で、すべてにおいて「答え」をすぐに求める傾向が強い。本単元では、「時と場合に応じた結論をその都度導き出す資質・能力」を育成させていきたい。 | | |
| 指導観 | 人間とAIの対比を通して、筆者の考える「人間の心のしくみ」を理解するために、読み進める前と後で自身の考えの変容が分かるように「振り返りシート」を活用する。また、「時と場合に応じた結論をその都度導き出す資質・能力」の育成については、『結論を出すために話し合う』と合わせて学習し、実社会に近い言語活動を目指していきたい。 | | |

１　単元の目標

(１)個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。

　　〔知識及び技能(２)イ〕

(２)①論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。

〔思考力、判断力、表現力等A(1)オ〕

②目的に応じて、文章に含まれている情報を関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。

　〔思考力、判断力、表現力等C(1)イ〕

(３)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

　　〔学びに向かう力、人間性等〕

２　単元の言語活動

・他の議論や討論の記録などを参考にしながら、議論や討論を行うことで話合いの目的に応じた結論を得たり，多様な考えを引き出したりする。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等A(1)ア〕）

・文章を読み、引用や要約などをしながら論述したり批評したりする。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等C(1)イ〕）

３　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 | ①「話すこと」において、論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫している。〔A(1)オ〕  ②「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めている。〔C(1)イ〕 | ①話し合いを通して、考えを広げたり深めたりしながら結論の出し方を工夫することについて粘り強く考える中で、今までの学習を生かそうとしている。  ②自らの考えを論述する活動を通して、内容や書き手の意図を解釈することに粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。 |

４　指導と評価の計画（全６時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 次 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
| １ | 〇単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。  〇文章全体の概要を把握し、構成をつかむ。  〇本文を読んで、自らの考えを述べる。 | 〔知識・技能〕① | 「記述の確認」  ノート  ワークシート |
| ２ | 〇第一段落の内容を理解する。 | 〔思考・判断・表現〕② | 「記述の確認」  ノート |
| ３ | 〇第二段落の内容を理解する。 | 〔思考・判断・表現〕②  〔主体的に学習に取り組む態度〕① | 「記述の確認」  ノート  ワークシート |
| ４ | 〇第三段落の内容を理解する。 | 〔思考・判断・表現〕② | 「記述の確認」  ノート |
| ５（本時） | 〇グループごとに、結論を出すための話し合いを行う。  〇人間とロボットの違いについて考える。 | 〔思考・判断・表現〕①  〔主体的に学習に取り組む態度〕①  〔主体的に学習に取り組む態度〕② | 「記述の確認」  「行動の確認」  ノート  ワークシート  発表の様子 |
| ６ | 〇話し合いそのものについて議論する。  〇人間とロボットの違いについて考える。 | 〔思考・判断・表現〕①  〔主体的に学習に取り組む態度〕① | 「記述の確認」  「行動の確認」  ワークシート  発表の様子 |

単元の流れ

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 次 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準、評価方法等 |
| 1 | 〇単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。  〇文章全体の概要を把握し、構成をつかむ。  〇本文を読んで、自らの考えを述べる。 | ・全文を通読し、本文のキーワードは何かを意識させる。  ・AIの是非ではなく、「人間」の存  在について書かせる。 | 〔知・技〕①  「記述の確認」ノート  ・問いについて、「人工知能」や「フ  レーム問題」といった頻出の言葉  について記述できているか確認  する。  〔主〕②  「記述の確認」振り返りシート  ・問いについて、粘り強く考えよ  うとしているか確認する。 |
| 2 | 〇第一段落の内容を理解する。  〇「強い人工知能」と「弱い人工知能」の違いについて理解する。  〇なぜ「強い人工知能」が実現していないのかを理解する。 | ・「強い人工知能」と「弱い人工知  能」の対比関係を意識させる。  ・「生物」と「機械やロボット」の  対比関係を意識させる。 | 〔思・判・表〕②  「記述の確認」ノート  ・問いについて考える中で、「強い  人工知能」が実現していない理由  についての筆者の考えを記述で  きているか確認する。 |
| 3 | 〇第二段階の内容を理解する。  〇「フレーム問題」について理解する。 | ・作業ロボット1号～3号の事例  から筆者はどのような主張を述べ  ているのか考えさせる。  ・人間にも「フレーム問題」に直  面していることはないか、自身の  経験より考えさせる。 | 〔思・判・表〕②  「記述の確認」ノート  ・問いについて考える中で、「フレ  ーム問題」についての筆者の考  えを記述できているか確認する。  〔主〕②  「記述の確認」ワークシート  ・問いについて、粘り強く考えよ  うとしているか確認する。 |
| 4 | 〇第三段落について理解する。  〇人間が「フレーム問題」にどの  ように対処しているか理解す  る。 | ・人間の「フレーム問題」に対す  る姿勢は、ロボットとどのように  違うのか考えさせる。  ・「学習のポイント」3①を考えさ  せる。 | 〔思・判・表〕②  「記述の確認」ノート  ・問いについて考える中で、人間  がうまく「フレーム問題」を回避  できる仕組みについて筆者の考  えを記述できているか確認する。 |
| 5  本時 | 〇グループごとに、結論を出す  ための話し合いを行う。  〇人間とロボットの違いについて考える。 | ・課題を確認させ、観点を設定し  たり、意見を述べたりした後に結  論をまとめる流れで行う。  ・振り返りシートには、人間とロ  ボットの違いについて考察した  ことと実際の話し合いを通して、  人間の仕組みについて考えたこ  とを、目標に沿って振り返るよう  に促す。 | 〔思・判・表〕①  〔主〕①  「記述の確認、行動の確認」ワークシート、発表の様子  ・検討の観点を設定し、優先順位  をつけるなどでよりよい結論の  ための話し合いにつなげている  か確認する。  ・伝え合う内容を検討することに  ついて粘り強く考える中で、工夫  や問題点などを実際の状況と関  連付けてとらえようとしている。  〔主〕①  「記述の確認」振り返りシート  ・人間とロボットの違いについて考察する中で、自らの学習を調整し、自らの考えを論述しようとしている。 |
| ６ | 〇前時の話し合いで録音したものを聞きなおす。  〇話し合いについて概念的な理解を深める。  〇単元の振り返りをする。 | ・前時でMetamojiに録音したものを振り返ることで、より良い話し合いをするにはどうするかグループで話し合う。  ・「結論を出すために話し合いの難しさはどこにあるのか」「意見や価値観の異なる人と話し合うためにはどうするか」の視点で振り返る。 | 〔思・判・表〕①  「記述の確認、行動の確認」ワークシート、発表の様子  ・よりよい結論を出すために、どのように修正すればよいのかについて考えを広げたり深めたりしているか確認する。 |

５　学習指導案（５時間目／全６時間目）

本時の目標：ア、検討の観点を設定し、よりよい結論のための話し合いにつなげている。（思考・判断・表現）

イ、伝え合う内容を検討し、工夫や問題点などを実際の状況と関連付けてとらえようとしている。　　　　　　　　　　　　　　　（主体的に学習に取り組む態度）

ウ、人間とロボットの違いについて考察する中で、自らの学習を調整し、自らの考えを論述しようとしている。

　（主体的に学習に取り組む態度）

言語活動：グループごとに結論を出すための話し合いを行う。

人間とロボットの違いについて、自分自身の考えを論述する。

本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価 |
| 導入  10  分 | □本時の目標を確認する。  □話し合いのテーマを確認する。 | ・第三段落の内容を復習し、本時のねらいを理解する。  グループの話し合いを通して、「人間とロボットの違い」について、自分自身の考えを述べよう。  ・テーマを確認後、グループになり司会者等役割を決める。 | ・今回の結論は必ずしも全員が納得できるものになるとは限らなくてよいことを伝える。 |
| 展開  37  分 | □結論を出すための話し合いを実行する。  □結論をまとめたうえで、クラス全体で意見交換を行う。  □人間とロボットの違いについて考える。  □グループで交流する。 | ・話合いの様子を評価するために、Metamojiの録音機能を使い、話合いを録音する。  ・グループで観点を出し合い、どの観点を優先するか決める。  ・現時点での結論をまとめる。（まだ残っている問題や留保していることも記録する）  ・Metamojiとプロジェクターに各班の出した結論を表示していく。  ・結論を出すためにとった方法、どういう点を重視したかについて発表する。  ・結論を出すための話し合いを踏まえて、人間の仕組みとロボットの「精神」の違いについて自身の考えを「振り返りシート」に記述する。  ・グループ内で自分の意見を発表する。類似点や相違点がないかメモを取りながら確認する。 | ・話し合いの様子を評価するために、Metamojiの録音機能を使うことを伝える。  【目標アに対する評価規準と評価方法】  規準：検討の観点を設定し、結論を出すという目的に応じた話合いを行っている。  方法：「記述の確認、行動の確認」ワークシート、発表の様子  〔目標ア達成のための手立て〕  既習のブレーンストーミングの要領を確認したうえで、検討の観点を思いつくだけメモしていくよう助言する。  【目標イに対する評価規準と評価方法】  規準：テーマに対する論点ごとの共通点や相違点を整理するなど結論を出しための話合いを工夫しようとしている。  方法：「記述の確認、行動の確認」ワークシート、発表の様子  【目標イ達成のための手立て】  前の発言との関係を考慮した発言をすることや部分的な留保を認めた結論を出すよう助言する。  ・当初のAIと人間に対する考えが話し合い活動を通してどのように変わったか記述するよう伝える。  【目標ウに対する評価規準と評価方法】  規準：人間とロボットの違いについて考察する中で、問いに対して粘り強く考えようとしている。  方法：「記述の確認」振り返りシート  〔目標ウ達成のための手立て〕  課題を解決する手立てを具体でとらえることができるよう、話合いでの自己の活動を改めて振り返るとともに、本文の「上手に手抜きしている」という表現に照らして考察するように助言する。 |
| まと  め  3分 | □本時の振り返りをする。  □次回の予告 | ・人工知能との違いは「人間は思考停止にならない」ことであるとまとめる。 | ・次回は今回の話し合いを録音したものを聞きなおし、より良い話し合いとは何かについて考察することを伝える。 |